



**三井倉庫ホールディングス株式会社**

2024年3月期 第1四半期決算説明会

2023年8月8日

## イベント概要

---

[企業名]	三井倉庫ホールディングス株式会社		
[企業 ID]	9302		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会		
[決算期]	2024 年度 第 1 四半期		
[日程]	2023 年 8 月 8 日		
[ページ数]	20		
[時間]	16:00 – 16:24 (合計：24 分、登壇：16 分、質疑応答：8 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	1 名		
	代表取締役専務取締役	中山 信夫	(以下、中山)

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 登壇

---

**司会：**ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。これより、三井倉庫ホールディングス株式会社の2024年3月期第1四半期決算説明会を開催させていただきます。

本日の資料は、三井倉庫ホールディングス株式会社のホームページに掲載をさせていただいております。また、画面右上にございます配布資料のタブからダウンロードすることが可能です。ご質問につきましては、チャットにて受付をいたしております。チャット欄にご質問を入力いただき、送信ボタンをクリックしてください。

また、本日はアンケートを実施しております。質疑応答終了後にチャット欄がアンケート画面に切り替わります。表示される画面よりご入力くださいませ。ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

それでは中山専務よろしくお願い申し上げます。

**中山：**三井倉庫ホールディングスの中山でございます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、2024年3月期第1四半期決算について、説明資料に沿いながら、ご説明申し上げます。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



24/3期 1Q実績	前期特殊要因の反動減、及び海上・航空運賃の下落から減収減益			
	営業収益	660億円	前年同期比	▲16.0%
	営業利益	62億円	前年同期比	▲9.2%
24/3期 通期累計 見通し	海上・航空運賃の想定以上の下落により前回予想比減収なるも、仕入運賃コストのコントロールにより利益率改善、営業利益を上方修正			
	営業収益	2,730億円	前回予想比	▲2.5%
	営業利益	215億円	前回予想比	+7.5%
株主還元	通期見通しの上方修正を期末配当予想に反映、増配			
	中間配当	67円 (予想)		
	期末配当	75円 (予想)	前回予想比	+8円
	年間配当	142円 (予想)	予想配当性向	30.0%

2

まず最初に、第1四半期の実績及び通期見通しのサマリーについてご説明いたします。2ページをご覧ください。

詳細は後ほどご説明いたしますが、第1四半期の実績は、前期特殊要因の反動減及び海上・航空運賃の下落から、減収減益となりました。

また、通期の見通しとしましては、海上・航空運賃が想定以上に下落したことにより、前回予想比で減収となる見込みであるものの、仕入運賃コストのコントロールにより利益率が改善していることから、営業利益を上方修正しました。

なお、通期見通しを上方修正したことから、期末配当予想も増額修正しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 海上及び航空運賃単価の下落を主因に減収減益となったものの、コストコントロールに努め営業利益率は改善
- 当期純利益は、前期発生していた特別利益の反動減により減益

(単位：億円)

連結合計	23/3期 1Q	24/3期 1Q	前年同期比	増減率
営業収益	786	<b>660</b>	▲126	▲16.0%
営業利益	68	<b>62</b>	▲6	▲9.2%
〔営業利益率	8.6%	<b>9.3%</b>	+0.7pt	—
経常利益	71	<b>65</b>	▲6	▲8.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	48	<b>38</b>	▲10	▲20.8%

4

4ページをご覧ください。第1四半期の実績は、営業収益は前期比126億円減収の660億円、営業利益は6億円減益の62億円となっております。減収減益になったものの、先ほど申しましたように、コストコントロールに努め営業利益率は改善し、8.6%から9.3%へと改善しております。

経常利益及び当期純利益も前期比減益となっております。当期純利益につきましては、前期発生した特別利益の反動減もございました。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

(単位：億円)

事業セグメント	23/3期 1Q	24/3期 1Q	前年同期比	増減率
営業収益	786	660	▲126	▲16.0%
物流事業	766	640	▲126	▲16.4%
倉庫・港湾運送	366	307	▲59	▲16.1%
航空貨物FWD	156	105	▲51	▲33.1%
3PL・LLP	228	190	▲38	▲16.7%
陸上貨物運送	69	69	▲0	▲0.1%
内部取引消去	▲53	▲31	+22	—
不動産事業	22	22	+0	+0.2%
全社・消去	▲2	▲2	▲0	—
営業利益	68	62	▲6	▲9.2%
物流事業	63	59	▲4	▲5.8%
倉庫・港湾運送	24	20	▲4	▲17.6%
航空貨物FWD	23	20	▲3	▲9.8%
3PL・LLP	15	15	+0	+2.4%
陸上貨物運送	2	4	+2	+85.7%
連結調整等	▲1	▲0	+1	—
不動産事業	13	13	+0	+1.4%
全社・消去	▲8	▲10	▲2	—

- 海上運賃の下落による減収に加え、在庫調整が継続し荷動きが鈍化。
- 主に海外で前1Qに発生していたサプライチェーン混乱に伴う緊急的な輸送業務が当期は発生せず減収減益。

- 家電・精密機器の生産国から日本への海上・航空輸送にかかる運賃単価下落により減収

- 航空運賃の下落により減収減益（前期の「特殊要因」の剥落を含む）なるも、仕入運賃の下落局面において機動的に調達を実施し利益率が改善

- 積載効率の向上に努め、備車費用削減し増益

- DX投資の実行に伴うシステム関連先行費用増

5

5 ページをご覧ください。セグメント別の業績についてご説明いたします。

当期より、物流事業の内訳を業態別にさらに分類して数字をお示ししております。表の上段、営業収益の中の物流事業の内訳の部分をご覧ください。

上から順に、各セグメントの概要を簡単にご説明いたします。倉庫・港湾運送は、港湾地区の倉庫を中心に貿易貨物を扱うセグメントです。航空貨物フォワーディングは、自動車関連等の国際貨物のエアフォワーディングを行っております。3PL・LLP は、主に電機、機械、電子部品メーカー、家電量販店向けの 3PL・LLP ビジネスを、陸上貨物運送は生活消費財を中心にトラック輸送を行っております。

続いて、それぞれのセグメントの業績をご説明いたします。営業収益については、倉庫・港湾運送、航空貨物フォワーディング、3PL・LLP の各セグメントが国際輸送における海上・航空運賃の下落の影響を受け、減収となっております。

一方で、営業利益をご覧くださいと、特に航空貨物フォワーディングの部分において冒頭申し上げました通り、仕入運賃のコストコントロールに努め、利益率は改善しております。陸上貨物運送においても、トラックの積載率向上等のコスト削減施策により、備車費用を削減して利益率の改

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

善を図っております。その他、不動産事業は横ばい、また、全社費用は、DX投資の実行に伴う先行費用が発生しております。

## (補足) セグメント別業績について



### セグメント別業績の開示についての補足説明

- 当第1四半期から開示した物流事業の業績の内訳についてよりご理解頂くため、補足となる情報を以下の通り掲載しております

掲載項目	掲載場所
セグメント毎の主要顧客・主要取扱貨物	本資料のP.29にセグメント毎の主要顧客・貨物を掲載しております
セグメント毎の所属する事業会社	本資料のP.25に各事業会社の所属セグメントを掲載しております
各セグメントの四半期毎の業績推移	本資料のP.19に掲載しております
各セグメントの長期業績推移	本資料のP.20に、17/3期以降の業績推移を掲載しております

- 物流事業の業績の内訳について、ご留意いただきたい点を以下の通り補足説明いたします
  - 海上貨物輸送（海上貨物FWD）業務は、主に倉庫・港湾運送セグメントに含まれております
  - ただし、当社は3PL・LLP業務としても航空貨物輸送・海上貨物輸送業務を受託しており、その場合には3PL・LLPセグメントにそれらの収益を計上しています
  - 当社の注力分野の「モビリティ」は主に航空貨物FWDに、「B2B2C」分野の収益は主に3PL・LLPに、「ヘルスケア」は主に倉庫・港湾運送に計上されます。しかし、当社グループは各事業会社が一体となって物流サービスを提供する統合ソリューションサービスを推進しており、各注力分野における収益は、特定の事業セグメントに限定されず複数のセグメントに跨って計上されます

6

6ページをご覧ください。セグメント別の業績について、補足のご説明をいたします。

先ほどは、各セグメントの内容について簡単な概要だけをご案内いたしましたが、セグメント毎の主要顧客や主要取扱貨物、各セグメントに所属する事業会社、過去の業績推移のそれぞれの項目について、現在ご覧いただいております説明会資料の後半のAppendixの部分に掲載しております。

表の中に各項目を掲載しているページ数をお示ししておりますので、お時間がございましたときに、そちらをご参照いただければと存じます。

### サポート

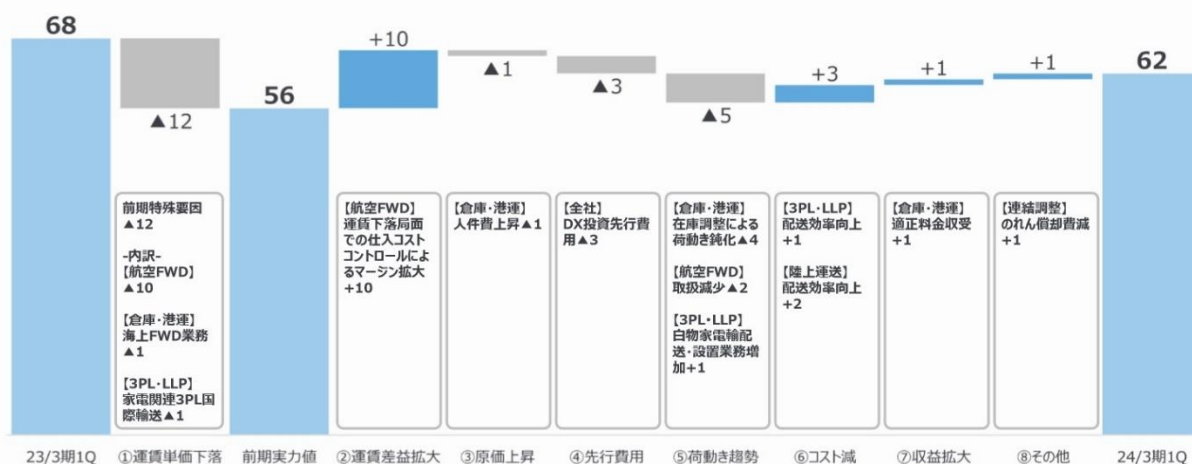
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





- ・ 海上・航空運賃は下落した一方、仕入れコストのコントロールにより利益率は改善
- ・ 主に海外において在庫の調整は継続、荷動きは低調に推移
- ・ 国内輸配送業務におけるトラック積載率向上等の効率化、及び適正料金收受の取組により、厳しい事業環境下においても収益力を強化

(単位：億円)



7

続きまして、営業利益の増減要因についてご説明いたします。7ページのステップチャートをご覧ください。

前期の第1四半期の実績68億円から、①の運賃単価の下落の部分の前期の特殊要因12億円を除いた前期実力値56億円を発射台にご説明いたします。②の運賃差益の拡大につきましては先ほど申し上げました通り、仕入コストコントロールによるマージンの拡大によるものでございます。

③の人件費等の原価上昇や、④の先行費用のコストアップ要因に加えて、⑤の荷動き趨勢としてお示ししております通り、お客様の在庫調整の動きが継続しており、荷動き鈍化による減益要因がございました。

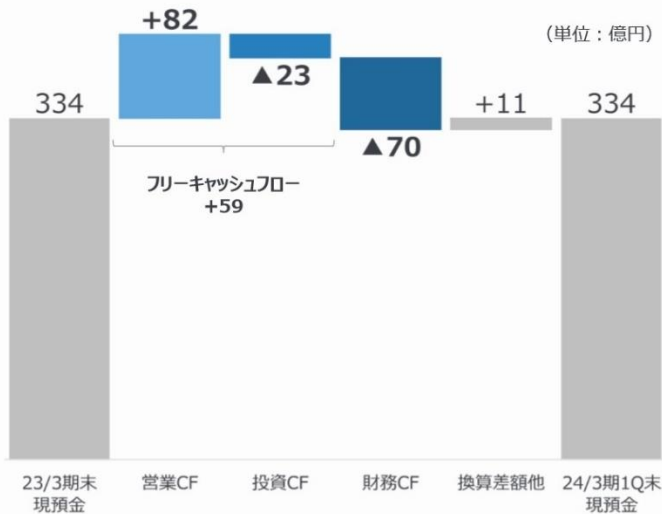
一方で、⑥の輸配送効率の向上によるコスト削減効果や、⑦の適正料金收受の取り組みの効果等もあり、第1四半期の営業利益は62億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



- 営業キャッシュフローは純利益の計上と売上債権の回収を主因に82億円のキャッシュイン
- 物流施設の維持更新投資、及びDX戦略に基づくソフトウェア投資を実行
- フリーキャッシュフローは借入金返済と株主還元に充当



キャッシュ・フローの主な内訳

• 営業CF	: +82
税金等調整前純利益	: +67
減価償却費/のれん償却費	: +24
売上債権/仕入債務の増減	: +6
法人税等	: ▲41
• 投資CF	: ▲23
設備投資	: ▲19
ソフトウェア投資	: ▲8
(小計) フリーキャッシュフロー	: +59
• 財務CF	: ▲70
借入金・社債増減 (ネット)	: ▲14
配当金支払	: ▲29
• 現預金の増減合計	: ±0

8

8 ページをご覧ください。キャッシュフローの状況についてご説明いたします。

営業キャッシュフローは 82 億円のキャッシュインとなりました。主に当期利益の計上によるものです。投資キャッシュフローは 23 億円のキャッシュアウトとなりました。主に物流施設の維持更新投資と、DX 戦略に基づくソフトウェア投資を実行しております。財務キャッシュフローは、資料に記載の通り、主に借入金の返済と配当金支払などにより、70 億円のキャッシュアウトとなりました。これらの結果、当期末の現預金残高は 334 億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 着実な利益の積上げにより、自己資本比率やD/Eレシオが改善

(単位：億円)

連結合計	23/3期末	24/3期 1Q末	前期末比
総資産	2,587	<b>2,610</b>	+23
現金及び預金	345	<b>341</b>	▲4
売上債権	323	<b>309</b>	▲14
有形・無形固定資産	1,493	<b>1,503</b>	+10
有利子負債（リース債務含）	926	<b>911</b>	▲15
借入金・社債	851	<b>838</b>	▲13
リース債務	76	<b>73</b>	▲3
自己資本	933	<b>972</b>	+39
自己資本比率	36.1%	<b>37.2%</b>	+1.2
D/Eレシオ	0.99	<b>0.94</b>	▲0.05

・ 既存施設の維持更新投資、DX戦略に基づくソフトウェア投資を実施し有形・無形固定資産が増加

・ 自己資本の増減理由は、当期利益+38億円、配当▲29億円、為替換算差額+22億円、有価証券評価差額+8億円

9

9 ページをご覧ください。バランスシートの状況についてご説明いたします。

総資産は、固定資産の取得等から前期比 23 億円増加し、2,610 億円となりました。リース債務を含む有利子負債残高は 15 億円減少し、911 億円となりました。自己資本は、利益の積上げや為替換算差額の増加を主因に 39 億円増加し、972 億円となりました。これらの結果、自己資本比率は 37.2%、D/E レシオは 0.94 倍に改善しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- ・ 海上・航空運賃の単価が想定以上に下落し、前回予想比で減収の見通し
- ・ 運賃下落局面におけるコストコントロールにより利益率改善、上期の営業利益を上方修正  
(上期修正分を通期業績予想に反映)

(単位：億円)

連結合計	24/3期 上期	前回予想比	24/3期 下期	前回予想比	24/3期 通期	前回予想比
営業収益	1,330	▲70	1,400	—	2,730	▲70
営業利益	115	+15	100	—	215	+15
経常利益	112	+15	95	—	207	+15
親会社株主に帰属 する当期純利益	63	+8	55	—	118	+8

11

11 ページをご覧ください。業績見通しについてご説明いたします。

まず、上期の業績予想について、営業収益は前回予想比 70 億円減収の 1,330 億円。営業利益は同じく 15 億円増益の 115 億円としております。海上運賃・航空運賃の単価が想定以上に下落したことから減収となるものの、運賃の下落局面において、仕入コストコントロールに努め、利益率を改善させたことから、上期の営業利益を上方修正いたしました。

上期の上方修正を通期見通しにも反映させる形で、通期の営業利益を上方修正しており、通期営業利益を 215 億円としております。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位：億円)

事業セグメント	24/3 上期	前回予想比	24/3 下期	前回予想比	24/3 通期	前回予想比
営業収益	1,330	▲70	1,400	—	2,730	▲70
物流事業	1,286	▲70	1,354	—	2,640	▲70
倉庫・港湾運送	630	▲30	710	—	1,340	▲30
航空貨物FWD	205	▲26	204	—	409	▲26
3PL・LLP	385	▲30	410	—	795	▲30
陸上貨物運送	140	▲5	135	—	275	▲5
内部取引消去	▲74	+21	▲105	—	▲179	+21
不動産事業	47	—	49	—	96	—
全社・消去	▲3	—	▲3	—	▲6	—
営業利益	115	+15	100	—	215	+15
物流事業	112	+13	99	—	211	+13
倉庫・港湾運送	40	+1	41	—	81	+1
航空貨物FWD	35	+6	21	—	56	+6
3PL・LLP	30	+5	30	—	60	+5
陸上貨物運送	8	+1	7	—	15	+1
連結調整等	▲1	—	—	—	▲1	—
不動産事業	27	—	30	—	57	—
全社・消去	▲24	+2	▲29	—	▲53	+2

- 海上・航空運賃の単価が想定以上に下落

- 航空運賃単価が下落する中、販売価格よりも仕入価格を相対的に低く抑える事が出来た結果、マージンが拡大

- 白物家電の国内の輸配送業務が想定を上回って好調に推移
- 加えて、積載効率改善によるコストコントロールに成功

- 原価上昇に対する適正料金收受の取組が想定以上に進捗

12

12 ページをご覧ください。セグメント別業績見通しの前回予想比をお示ししております。

物流事業の営業収益については、第1四半期の実績のスライドでご説明した通り、海上・航空運賃の下落により、前回予想比減収となる見通しです。一方、営業利益については、航空貨物フォワーディングがマージンの拡大により増益となる見通しです。

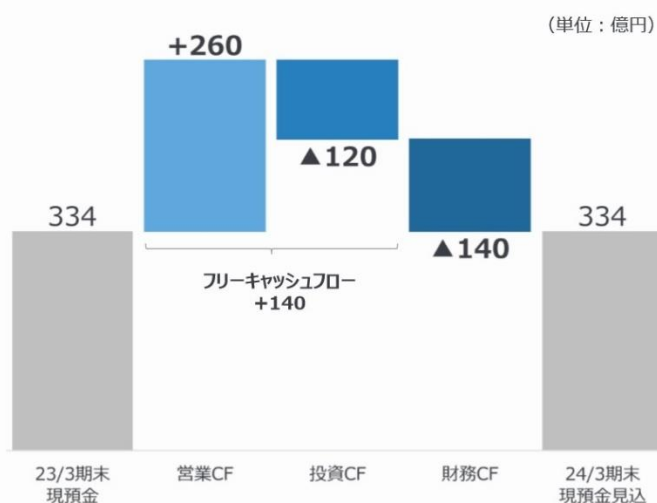
また、3PL・LLP に関しましては、白物家電の国内での輸配送業務が想定を上回って好調に推移している他、関東圏の EC 向け物流拠点の新規立ち上げ業務の受注がございました。また、九州において、家電量販店様が複数の大型店舗を新規出店されるにあたって、新店舗の立ち上げのための物流業務の受注もございました。

この他、複数の種類の貨物の積み合わせによる、積載効率の改善によるコスト削減もあり、前回予想比で増益となる見通しです。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 営業キャッシュフローは260億円のキャッシュインを見込む
- DX投資、及び物流施設の維持更新投資の実行を予定



キャッシュ・フローの主な内訳 (予想)

• 営業CF	: +260
減価償却費/のれん償却費	: +100
• 投資CF	: ▲120
設備投資	: ▲75
ソフトウェア投資	: ▲45
(小計) フリーキャッシュフロー	: +140
• 財務CF	: ▲140
借入金・社債増減 (ネット)	: ▲65
配当金支払	: ▲45
• 現預金の増減合計	: ±0

13

13 ページをご覧ください。キャッシュフローの見通しにつきご説明いたします。

営業キャッシュフローは 260 億円のキャッシュインを見込んでおります。投資キャッシュフローは 120 億円のキャッシュアウトを見込んでおります。引き続き、設備の維持更新投資に加えて、DX 投資を実施予定です。財務キャッシュフローについては、借入金の返済及び配当金支払により 140 億円のキャッシュアウトを見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



- D/Eレシオは1.0倍を切る水準で推移する見通し
- 戦略投資の実行に備えて投資余力を確保

(単位：億円)

連結合計	23/3期末 実績	24/3期末 予想	前期末比
総資産	2,587	2,625	+38
現金及び預金	345	345	+0
売上債権	323	300	▲23
有形・無形固定資産	1,493	1,515	+22
有利子負債（リース債務含）	926	860	▲66
借入金・社債	851	785	▲66
リース債務	76	75	▲1
自己資本	933	1,035	+102
自己資本比率	36.1%	39.4%	+3.3
D/Eレシオ	0.99	0.83	▲0.16

• DX戦略に基づくソフトウェア投資を実行し、無形固定資産の増加を見込む

14

14 ページをご覧ください。バランスシートの見通しにつきご説明いたします。

24年3月期末の有利子負債残高は、前期末比66億円減少し、860億円となる見通しです。自己資本は、前期末比102億円増の1,035億円を見込んでいることから、自己資本比率は39.4%へ、D/Eレシオは0.83倍へ改善する見通しです。

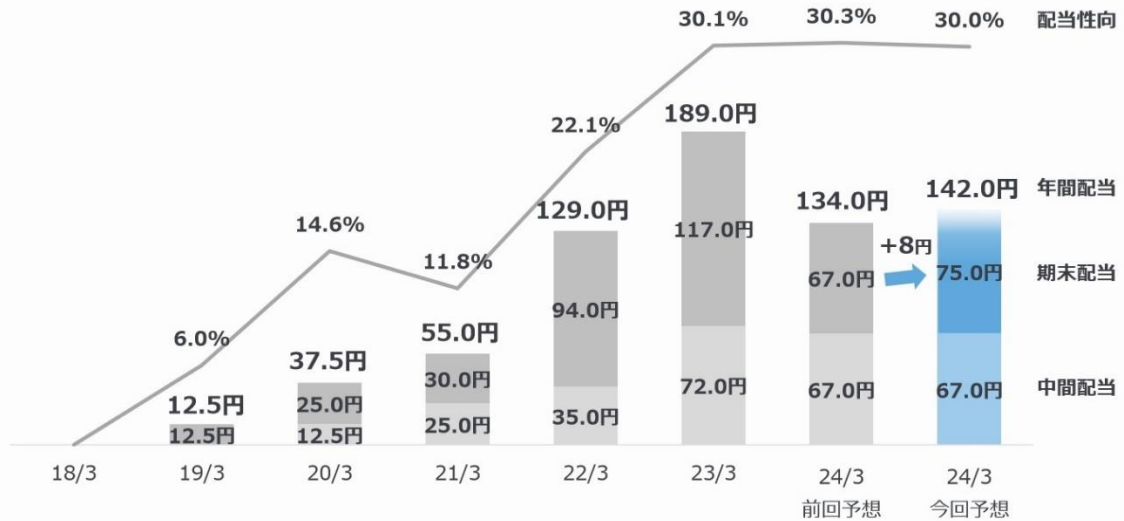
中期経営計画の財務規律目標であるD/Eレシオ1.0倍を一時的に下回る見込みですが、これは来期実行予定の箱崎ビルのマルチテナント化工事を含む今後の投資計画を踏まえ、投資余力を確保しているものです。引き続き、中計最終年度に向けた中長期的な目線でD/Eレシオ1.0倍を基準に、バランスシートをコントロールしてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



- 年間配当性向30%を基準に、業績に連動した機動的な配当
- 業績の上振れを期末配当予想に反映（前回予想比+8円の増配）



16

16 ページをご覧ください。株主還元についてご説明いたします。

当社は、年間の配当性向が 30%となるよう配当金額を決定しております。今回の業績の上方修正による上振れ分を期末配当予想に反映し、前回予想比で 8 円の増配としております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 企業価値向上を目指し、資本コストと株価を意識した経営を実行。現中計ROE目標は12%
- 株主との対話も随時実施。対話の内容を踏まえ、今期より業績情報の開示内容を拡充

#### 資本コストを意識した経営の実現に向けた対応

- 資本コストを意識した経営を行う上で、ROEを重要な経営指標のひとつとして位置づけ
- 現行の中期経営計画2022においては、自社でCAPMに基づき計算した株主資本コストを越えるROE12%超の目標を設定
- 直近は目標を上回るROEで推移。引き続き高水準な資本効率の維持に努める（ROE実績の推移はAppendix P.26を参照）

#### 株価を意識した経営の実現に向けた対応

- PBRについての議論を取締役会で定期的に行い、適正な外部評価の獲得に向けた施策を検討、実施
- 当社HPの改訂や、投資家との継続的な面談などのIR活動強化。加えて、資本効率を意識した経営を目的に株式報酬制度を導入
- 今後も、サステナビリティを意識した開示の拡充や、積極的な株主との対話などを通じて、株式価値のさらなる向上を目指す

#### 株主・投資家との対話の実施状況等

- 2022年度は以下の通り対話を実施
  - 決算説明会：4回（延べ191社参加）
  - 個別IR取材：延べ74件
  - 機関投資家エンゲージメント：11社（議決権行使部署との対話）
- 対話において頂いた貴重な意見を、企業価値向上のためにIR担当役員から取締役会に対して定期的なフィードバックを実施
- 直近の対話内容を踏まえ、投資家の皆様のニーズが特に高い物流事業の業績の内訳について、今期より開示内容を拡充

17

17 ページをご覧ください。最後に、当社の企業価値向上に向けた取り組みについて、簡単ではございますがご紹介をさせていただきます。

当社は、企業価値向上を目指して、資本コストと株価を意識した経営を実行しております。現行の中期経営計画においては、最終年度の ROE 目標値を 12%と設定し、これに向けて各種施策に取り組んでおります。

また、株主、投資家の皆様との対話も随時実施しております。直近の投資家の皆様との対話の中で、特にご要望が多かった物流事業の業績の内訳について、今期より開示内容を拡充いたしました。今後も当社はさらなる企業価値向上を目指してまいります。

以上で私の説明を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## 質疑応答

---

**司会 [M]**：それでは、質疑応答に移らせていただきます。

ご質問はチャットにて受け付けております。なお、お時間の関係上、全ての質問にお答えできない場合がございます。ご了承ください。

最初のご質問をご紹介します。

**質問者 [Q]**：福岡の半導体の物流拠点と大阪高槻の小口 EC の物流拠点について、稼働状況と今後、業績貢献見通しについて詳しく教えてください。中山専務、お願いします。

**中山 [A]**：では、まず九州の半導体の新規拠点の件についてご説明申し上げます。これは従来からお客様の半導体の配送機能センターを分散して運営しておりましたが、今般それを統合いたしました。統合プロセスは既に完了しております。

今回統合の目的の一つは、今後九州における半導体ビジネスの拡大が期待されておりますところから、このビジネスの取り込みを狙ったものであります。具体的には来期以降の増収増益効果を期待しているところであります。

ただ、九州における半導体もご案内の通り、世界最大の半導体メーカーの進出、それに伴う日本の半導体メーカーの動きが非常に活発化しておりますので、しっかりとこれをフォローしていく方針でただいま取り組んでおるところでございます。

それから 2 点目のご質問の大阪府高槻市における EC 業務の拠点構築でございますが、これはペット関連の製品のお客様の商流変更、すなわち EC 業務の拡充を図っていくということに依って、今は首都圏 1 カ所でやっているものを、東と西、二つに分けて、さらなる拡大を強化していくということです。

先行して首都圏でスタートして、そのビジネスは非常に順調に進んでおり、これを西でも展開するということです。これの P/L インパクト等は、関西分としては本格化してくるのは今期第 4 クォーター以降と、さらに本格化するのは来期と見ておるところでございます。以上でございます。

**質問者 [Q]**：次のご質問をご紹介します。

修正された計画の前提となる海上運賃・航空運賃の、2Q 以降の見通しを教えてくださいませんか。お願いします。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



**中山 [A]**：海上運賃及び航空運賃の今後の見通しについてであります。ご案内の通り、海上運賃について、コンテナの運賃については、一部のレーンを除いてほぼビフォーコロナのベースまで価格が下がってきております。

一方で、自動車船、あるいは資源を運ぶ不定期船、この市況は逆に値が上がっているという状況の中で、船会社の今後の供給がどういう形で展開されるのか。それからコンテナを利用する貨物の今後の需要がどういうふうに変化していくのか。多くの船会社の見方は、第4クォーター辺りから反転するという見方をされておられますが、まだ先行きは不確定と言わざるを得ない状況であります。

航空運賃についても、ほぼ同様の状況ですが、細かく見ると、船賃より価格の低下は進んでないと。ほぼビフォーコロナと言いますが、レーンを細かく見ていくと、特にヨーロッパについては地政学的なリスク要因もあって、あるいはロシアの上空を飛ばないとか、いろんなそういうコストアップ要因もありまして、比較的価格は高いレベルで動いているということでございます。

ほぼそういった価格の動向については、予算時に立てたベースで2クォーター以降を見ておりますが、市場の動向については非常に変化が激しいものでありますから、私どもも上期を締めた段階で、その辺のお客様の動向、市場の動向を十分見極めた上で、下期の業績予想の見通し、ひいては通期の業績見通しについても見直していきたいと現時点では考えておるところでございます。以上でございます。

**司会 [M]**：ご質問のある方は、チャット欄にご入力いただき、送信ボタンをクリックしてください。

ご質問者はいらっしゃいません。中山専務、よろしくお願いいたします。

**中山 [M]**：本日はお忙しい中ご参加をいただき、どうもありがとうございました。

**司会 [M]**：最後にアンケートにご協力のお願いがございます。チャット欄がアンケート入力画面に切り替わっております。こちらよりご入力のほど何卒よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、三井倉庫ホールディングス株式会社、2024年3月期第1四半期決算説明会を終了させていただきます。本日はご参加いただきありがとうございました。

[了]

---

## 脚注

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

